

活動報告②

汚水処理生物研究会キックオフセミナー

幹事 吉田 恵也

平成 27 年 8 月 22 日(土)14 時より、仙台市戦災復興記念館 4 階第 2 会議室において、汚水処理生物研究会キックオフセミナーが 2 部構成により開催されました。参加者は、定員 50 名を上回る 52 名となり、遠くは東京・山形からもご参加いただきました。

第 1 部のはじめに、公益社団法人宮城県生活環境事業協会の佐藤佑会長より挨拶をいただき、公衆衛生の向上と水環境の保全に寄与してきた浄化槽の大切さと共に、汚水処理生物の働きや出現環境等を学ぶ機会を貴 NPO 法人環境生態工学研究所から提供していただけることに対し、御礼と今後の継続的な研究会の発展を祈念してご祝辞をいただきました。

続いて、須藤理事長より「汚水は微生物の餌になる」と題して、ご講演をいただきました。話題の中で生物処理発展の流れが説明され、活性汚泥法がイギリスのマンチェスターで誕生してから、今年で 100 年を迎えると聞き、改めて汚水の生物処理における歴史の深さを感じました。また、様々な微生物の写真を基に解説していただきました。ご講演のまとめの中で、それぞれの微生物の現場での役割について検討を加えること、可能であれば微生物を保存培養することを結びとされ、今後開催される定期勉強会のプロローグと感じ取りました。

引き続き、一般社団法人宮城県下水道公社の鹿野信宏氏から「下水処理場における微生物管理の現状と課題」と題してご講演をいただきました。話題のひとつの下水処理における微生物の利活用の中で、国内における下水処理法の比率を示され、活性汚泥法などの浮遊生物法が約 92%を占めることと、生物膜法はわずか 2%程度であることに個別分散型排水処理の浄化槽との違いを感じました。また、臭気(悪臭)対策にも微生物が活用されていること、処理障害を引き起こす放線菌対策の現状や流入下水の水温が上昇傾向であること、節水行動と機器の普及による影響等、興味深く拝聴いたしました。さらに、鹿野氏が執筆に携わった下水試験法生物試験編に付属されている CD-ROM の活用方法について、分かりやすく解説していただきました。



第 2 部は、カールツァイスマイクロスコーピー株式会社の田中亨氏から「微小世界を覗く顕微鏡の歴史と環境教育の現実」と題してご講演をいただきました。顕微鏡の歴史の話題の中で、田中氏所有のレーベン・フックの単式顕微鏡(レプリカモデル:左写真)を実際に見せていただきました。また、近代顕微鏡の起源について、創業者で機械製造のマイスターであるツァイス氏と物理学者のアッペ氏、ガラス職人のスコット氏の 3 人のコラボレーションによりブレークスルーしたと聞き、人と人との出会いの大切さを痛感しました。また、アッペ氏が早期にカールツァイス社を財団企業

化へ導いた先見性と社会貢献の数々，考え方等に感銘を受けました。次に顕微鏡観察の基礎知識として，仕事をするとき必須の知識を分かりやすく解説いただきました。さらに，顕微鏡を使った環境教育実例として，Jazz ミュージシャンでミジンコ研究家の坂田明氏らと田中氏がボランティアで行っている環境教育活動の紹介をいただき，ミジンコを中心とした微生物の観察・撮影を目的として，顕微鏡持参で2泊3日の合宿をしている様子を拝見し，ぜひ私も参加してみたいと思いました。

キックオフセミナーの最後に，千葉理事から定期勉強会開催の日程が伝えられ，早速参加の意思表示をされている方もいらっしゃいました。

最後に，満員御礼の中で汚水処理生物研究会キックオフセミナーが盛会に開催されたことに関し，ご参加いただいた皆様とご登壇いただいた講師の皆様に深く感謝を申し上げ，活動報告とさせていただきます。



佐藤佑会長よりご挨拶



鹿野信宏氏



須藤隆一理事長



会場は満席となりました



田中亨氏